

「日本自然保護大賞」企業・団体リーダー部門 大賞受賞

このたび弊社の製品「里山物語」の取り組みが、「日本自然保護大賞」（主催：公益財団法人 日本自然保護協会 後援：環境省ほか）において、自然保護や生物多様性保全を積極的に推進したとして、「企業・団体リーダー部門」での大賞を受賞しました。「里山物語」は、日本の森と里山を守り、人と生物を育む紙として、2009 年から販売している環境対応用紙です。



日本自然保護大賞は、日本全国で活躍されている自然保護と生物多様性保全に貢献する取り組みを顕彰するものです。日本で自然保護憲章が制定され 40 周年という節目の年に、この賞を通して、自然保護と生物多様性の保全をより積極的に推し進め、自然と人の暮らしの調和のとれた地域や社会づくりを推進することを目指しています。

3 月 8 日（日）には日比谷コンベンションホールで授賞式・活動発表会（<http://www.nacsj.or.jp/award/>）が開催されますので、あわせてご案内申し上げます。

以 上

日本の森と里山を守り、人と生物を育む紙「里山物語」

「里山物語」は誰でも容易に環境や社会に貢献できるよう、①日本の森を守る、②里山と生物多様性を守る、仕組みを構築した紙です。

①取り組みを始めた当時は、主にコストの問題から間伐されない人工林や、林地に放置した切り捨て間伐の例が多く見受けられていました。そこで健全な森林保全のために、間伐材を最大限活用した仕組みの紙を生み出しました。環境省の「森林認証材・間伐材に係るクレジット方式運用ガイドライン」に基づき、証明書付間伐材を購入し、製紙原料に実際に配合しない製品でも、使用したと見なすクレジット方式を採用し、間伐材 100%を配合したと同等の効果を得られます。販売する分の間伐材は必ず購入することになり、製紙業界随一の間伐材活用で、森林保全に貢献しています。

②生物多様性の宝庫として世界へ提言した日本の「里山」は、生活形態の変化、エネルギーの転換などで、現在では各地で荒廃が進み、さらには消滅してしまった地域も多くあります。こうした里山の喪失を危惧し「里山物語」の代金の一部に寄付金を付加することにより、里山を有効活用している団体の活動を支援する仕組みをつくりました。寄付金は NPO 法人里山保全再生ネットワークと協業し、かつての経済価値を失った里山を守るために、新たな価値や用途で持続的に里山を活用する団体を支援しようと、選定基準を定めて運用しています。

2009 年からの販売開始から現在までの 4 件の支援先は、いずれも一過性の里山保全ではなく、実際に里山を活用しながら、自ら社会的意義のある活動を積極的に行う素晴らしい団体です。「里山物語」のユーザーは、使用する用紙を変えるだけで、日本の森、里山、生物多様性を守る活動を支援したことになります。

紙づくりという本業だからこそ持続可能な取り組みは、2014 年 3 月には、「国連生物多様性の 10 年日本委員会」の連携事業にも認定されました。日本中に「里山物語」の支援先ができるよう、今後も挑戦していきます。

